

ワクワクドキドキの学校探検

袖ヶ浦市立中川幼稚園長

いしわた まもる
石渡 衛



1 はじめに

本園は、袖ヶ浦市の南西部にあって、木更津市に隣接し、JR久留里線の横田駅近くに位置している。地域の自然環境や保護者や地域の方々の協力に恵まれ、それらを生かした特色ある活動を展開している。今年度より、市内全域から園児が登園している袖ヶ浦市で唯一の公立幼稚園である。保育期間は2年間で、年少組3クラス(65名)、年長組3クラス(71名)の合計6クラスである。

2 保幼小が連携した活動

本市では、幼児教育において質の高い保育及び教育の提供や小学校への滑らかな接続のための教育施策「袖ヶ浦市幼児教育カリキュラム」が策定されている。本園も、このカリキュラムの策定に参画するとともに、近隣の保育所や小学校の子供たちの実態や状況に応じた活動を実践している。

次に挙げるものは、その実践例である。

- (1)年長児と1年生の遊びを通しての交流活動(4～5月)
- (2)小学校運動会の練習見学・小学校でのプール遊び(6～8月)
- (3)高学年児童と遊ぶ・2年生の校外学習まち探検受け入れ(9～12月)
- (4)学校探検(2月)

3 ワクワクドキドキ「学校探検」

2月に行う「学校探検」は、近隣の保育所の年長児と小学校を訪問し、始めの会を行った後、保育所・幼稚園の幼児と小学生が3人グループになって、学校の中を探検する。



「学校探検」の様子

「この部屋はなんだろう？」

「何をしているだろう？」

子供たちは、ワクワクドキドキMAXである。探検の後には、授業の様子や給食の配膳の様子も見学して回る。

この学校探検の活動を通して、子供たちは小学校へのあこがれの気持ちを抱くとともに、自分の未来を見通すことができる。さらに、小学校の校舎や校庭、学校生活の流れの一端を知り、小学校での生活に安心感と期待感を持つことにつながる。

一方、小学生は、年下の幼児と接することで自分の成長に気付いたり、思いやりの心を育んだりすることができる。活動に取り組む小学生の微笑ましい姿からも、その成長を伺うことができる。

4 おわりに

これらの交流活動をより意義ある活動にするには、活動のねらいの確認、日程調整や活動内容の立案等、職員間の打合せが欠かせない。本市では、連携を推進する組織として地域の小・中学校と幼稚園が連携を深める連絡協議会があり、管理職間での情報交換、連携推進協議、職員の異校種研修や相互参観等の取組が行われ、成果を上げている。

高等学校普通科における教科「情報」の授業の実際

県総合教育センターカリキュラム開発部メディア教育担当

1 はじめに

高等学校の新学習指導要領は、今年度から移行期間、令和4年度から年次進行で実施となっている。県総合教育センターでは昨年度から新科目「情報Ⅰ」の実施に向けた研修を実施しており、来年度に県下の全公立高等学校(各校1人)が受講を完了する予定である。

2 現行学習指導要領における情報科目

現行の普通教科「情報」の科目には、ICT機器・ネットワークの活用や情報社会への参画が中心の「社会と情報」(標準2単位)と、デジタルデータの原理やコンピュータを活用した問題解決が中心の「情報の科学」(同)の2科目があり、いずれか1科目の選択必修となっている。現在、県立普通高校の履修科目は「社会と情報」が約75%、「情報の科学」が約25%となっている(前者の約2割が選択科目の中に「情報の科学」を設定)。

3 新学習指導要領における情報科目

新学習指導要領では、共通教科「情報」の科目として「情報Ⅰ」と「情報Ⅱ」の2科目が設けられ、「情報Ⅰ」(標準2単位)が必修となった。学習指導要領に示された「情報Ⅰ」の学習内容は表1のようなものである。

4 教科「情報」の授業の今とこれから

現行の学習指導要領ではそれ以前の科目からの改訂にあたって、「情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方や考え方について、より広く、深く学ぶことを可能とする」こととしており、知識・理解や思考・判断を

伴う学習も求めている。しかし現在多くの学校で履修している「社会と情報」の授業では、ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの活用など作業的な実習にかなりの時間を充てている学校も少なくない。

今後は教科「情報」の授業において、新学習指導要領における教科の目標「…情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成することを目指す」を踏まえ、従来の作業的な学習から、問題の解決に向け生徒自らが考える活動に比重を移す必要がある。その実現のため、冒頭で述べた研修では授業改善の必要性について理解を深めている。

表1 「情報Ⅰ」の単元と主な学習事項

単元	主な学習事項
情報社会の問題解決	問題発見・解決の方法、著作権、情報モラル
コミュニケーションと情報デザイン	メディアの特性・コミュニケーション手段の特徴の理解、情報デザインの考え方や方法
コンピュータとプログラミング	コンピュータや外部装置の仕組み・特徴、アルゴリズムの表現手段(フローチャート等)、プログラミング、事象のモデル化・シミュレーション
情報通信ネットワークとデータの活用	情報通信ネットワークの仕組み、情報セキュリティ、データの蓄積・管理・提供(データベース等)

5 おわりに一小・中学校に期待すること

今後の高等学校情報科での指導は、入学時点で基本的なコンピュータの活用能力や基礎的なプログラミング的思考が身に付いていることが前提となる。小・中学校においては、この点を意識し着実な指導をお願いしたい。